



佐々木市長(左)と懇談する金子教授(右から2人目)らプロジェクトのメンバー

情報技術で住みよく

慶応大研究者ら  
青森市長と懇談

情報技術とハイテク移動装置の組み合わせによる住みよい地域社会の創出を目指すプロジェクトに取り組んでいる慶応大学などの研究グループが二十七日、研究・実験地域の一つである青森市を訪れ、市役所で佐々木誠造市長と研究の進め方や連携について懇談した。

来訪したのは金子郁容・慶応大学大学院教授ら八人。慶応大側は、情報技術を駆使して自動運転する小型電気自動車の実験計画などを説明し「技術はたくさんあるが、地域に喜ばれるように活用するには、バリアフリーなどまちのつくり方や住民の希望を総合的に検討することが重要」とした。

佐々木市長は「まちなかに移り住む人が増えるとコミュニティを再構築しないといけない」とし、情報によって人をつないでいく仕組みや、新しい地域交通の研究を要望した。

この記事は、東奥日報の許諾を得て掲載しております。無断転用・複写を禁じます。